

研究 報告

スクミリンゴガイ捕獲用箱型トラップと 誘引餌による防除効果と水生生物への 誘引餌の影響

滋賀県農業技術振興センター きたの 北野 だいすけ 大輔*・増田 ますだ 倫士郎**

はじめに

地球温暖化などの気候変動は、病害虫の発生傾向に変化をもたらしている（松村，2014）。南米原産であるスクミリンゴガイ *Pomacea canaliculata* (Lamarck)（図-1）は、温暖化傾向によって被害が増加する病害虫の代表例といえるだろう。本種の冬季の生存率は、国内で比較的温暖な九州地方でも 10% 未満（YOSHIDA et al., 2009）とされるが、いわゆる暖冬時には生存率が上昇するため（菖蒲ら，2001）、翌年の水稻作において主に 3～4 葉期までのイネを食害し大きな被害をもたらすことがある。本種の潜在的な分布可能地域は現在の分布よりも広く（YOSHIDA et al., 2022）、今後、発生地域が拡大することが懸念されるため、本種に対する防除の選択肢の拡大は喫緊の課題である。

食用目的で全国各地に導入された個体が遺棄され野生化したスクミリンゴガイは、滋賀県においても主に県南部の水田で発生し、防除が実施されている。本種の防除方法として、薬剤散布、冬期のロータリ耕耘、捕殺や卵塊の除去、ならびに浅水管理による食害抑制などが提示されている（農林水産省消費・安全局植物防疫課，2024）。このうち、本種の捕獲にトラップが使用されているが、2022 年には、スクミリンゴガイの捕獲を目的とした箱型トラップ（商品名：スクミッチ、大栄工業株式会社）が開発された。この箱型トラップは、トラップ内に侵入したスクミリンゴガイが逃げ出さないような構造となっている。また、これまで課題とされてきた誘引効果とその持続性を解決しうる誘引餌（吉田ら，2021；以下、ミックス餌と表記する）も開発された。ミックス餌は、量販店で手に入る材料で自作することができる。



図-1 スクミリンゴガイ（左）水田内を移動する成貝，（右）移植 1 週間後のイネを食べようとする成貝。

A Box Trap with an Attractant Bait for Capture of Golden Apple Snail *Pomacea canaliculata*: Effect of Control on Snails, and Attractant Bait on the Aquatic Organisms. By Daisuque KITANO and Rinshiro MASUDA

（キーワード：食害抑制，水田，スクミリンゴガイ，生物多様性保全，物理的防除）

*現所属：滋賀県農政水産部 農政課

**現所属：滋賀県農政水産部 みらいの農業振興課